

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年5月29日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11792

研究課題名(和文) 離島在住の在宅療養高齢者における地域医療福祉サービスの満足度に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Overall Satisfaction Level of Senior Citizens who are Home-care Recipients with Community Medical Welfare Services

研究代表者

横尾 誠一 (YOKOO, Seiichi)

長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・助教

研究者番号：90508318

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は離島在住の在宅療養高齢者を対象に地域における医療福祉サービスの満足度に関する要因を明確にすることを目的に実施した。A県内離島地域5ヶ所の通所リハビリテーション施設を利用している高齢者220名を分析対象とした。統計解析の結果、「(自身の)病気、治療に関する情報が福祉職員間で共有」の項目が医療福祉サービスの満足度の影響要因であり、「共有している」と思う者が満足度が高い結果であった。本研究の結果から福祉職員が今後さらに医療的側面からのアセスメントに基づいたサービスを提供することが求められていることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は離島在住の在宅療養高齢者を対象に地域における医療福祉サービスの満足度に関する要因を明確にすることを目的に実施した。A県内離島地域5ヶ所の通所リハビリテーション施設を利用している高齢者220名を分析対象とした。t検定、重回帰分析(ステップワイズ法)による分析結果、「病気、治療に関する情報が福祉職員間で共有されている」の項目が医療福祉サービスの満足度の影響要因であり、「共有されている」と思う者が有意に満足度が高かった。

本研究結果は高齢化の進行が著明な離島地域における医療福祉サービスの発展に寄与する可能性がある。また、離島地域における高齢者を対象とした研究も蓄積にも貢献できると考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify factors related to the satisfaction level of medical welfare services in the community for home-care elderly people living in remote islands. The analysis target was 220 elderly people using 5 outpatient rehabilitation facilities in A remote island area. As a result of statistical analysis, the item of "information about (ill's) illness and treatment is shared among the welfare workers" is an influence factor of the satisfaction level of medical welfare services, and those who think "shared" are satisfied. The result was high. The results of this study suggest that welfare workers are required to provide services based on medical assessment in the future.

研究分野：在宅看護学

キーワード：離島 在宅 高齢者 医療福祉サービス 満足度

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

わが国は超高齢社会を迎え、様々な健康障害をもって在宅で生活する高齢者が増加している。その中でも離島地域における高齢化の進行は顕著であり、離島地域における在宅療養高齢者への医療福祉サービスを維持・向上は喫緊の課題である。先行研究において、離島地域の在宅療養高齢者を対象とした地域医療福祉サービスの満足度を検証した研究蓄積は十分とは言い難い。離島地域の在宅療養高齢者による医療福祉サービスの満足度を明らかにすることは、サービスの質と在宅療養高齢者の QOL の向上に有益であると考えられる。

2. 研究の目的

本研究は離島在住の在宅療養高齢者を対象に地域医療福祉サービスに関する要因を明確にすることを目的とする。

3. 研究の方法

A 県内離島地域 5 ヶ所の通所リハビリテーション施設のサービスを利用している高齢者 220 名を分析対象とした。調査方法は、日本語版 Client Satisfaction Questionnaire 8(以下 CSQ-8J とする)、研究者作成の調査表およびルーベンソーシャルネットワーク尺度を使用し、自己記入式にて実施した。分析方法は CSQ-8J を従属変数、個人背景等の項目を独立変数とし、t 検定、重回帰分析(ステップワイズ法)にて解析した。統計ソフト SPSS ver22.0 を使用した。

倫理的配慮として、研究の趣旨、方法及び研究参加は任意であり参加しなくても不利益を受けないこと、調査は無記名で行い、データは個人が特定できない取り扱いをする等を口頭と書面で説明した。調査票を回収箱へ投函を以って研究参加同意をみなした。尚、本研究は長崎大学大学院医歯薬学総合研究科倫理審査委員会の承認を受けて実施した(承認番号: 15051412)。

4. 研究成果

(1) 対象の概要(表 1)

対象者は、男性 82 名(37.3%)、女性 138 名(62.7%)の合計 220 名。平均年齢は 82.0±7.9 歳、平均介護保険利用期間は 62.1±48.8 月、CSQ-8J 平均得点は 24.0±4.3 点であった。同居家族はありが 154 名(70.0%)となしよりも多く、介護度は要支援が 129 名(58.6%)と要介護よりも多かった。訪問サービスは利用なしが 168 名(76.4%)と利用ありよりも多く、住居の立地環境は平地が 172 名(78.2%)で斜面地よりも多かった。自宅への車横づけは可能が 173 名(78.6%)と不可能よりも多く、住居形態は戸建が 208 (94.5%)で集合住宅よりも多かった。ソーシャルネットワークは 12 点以上が 117 名(53.8%)で 12 点未満よりも多かった。病気、治療に関する情報が医療と福祉で共有されていると思うが 160 名(72.7%)と思わないよりも多く、病気、治療に関する情報が福祉間で共有されていると思うが 166 名(75.5%)と思わないよりも多く、療養生活の意向の情報が共有されていると思うが 140 名(63.6%)と思わないよりも多く、療養生活の意向の情報が福祉間で共有されていると思うが 152 名(69.1%)と思わないよりも多かった。今後の生活の不安は不安が 122 名(55.5%)と不安でないよりも多く、自身の健康の不安は不安が 144 名(65.5%)で不安でないよりも多く、配偶者の健康は不安が 63 名(28.6%)で不安でないよりも多かった。

表 1.対象者の概要

		n=220				
	対象	最大値	最小値	平均値	標準偏差	中央値
年 齢(歳)	全体	100.0	65.0	82.0	7.9	83.0
	男性	94.0	66.0	79.3	7.7	80.5
	女性	100.0	65.0	83.5	7.7	85.0
介護保険利用(月)	全体	200.0	1.0	62.1	48.8	43.0
	男性	176.0	1.0	48.4	42.2	38.5
	女性	200.0	1.0	70.3	51.2	52.5
CSQ-8(満足度)合計得点	全体	32.0	9.0	24.0	4.3	24.0
	男性	32.0	11.0	23.6	3.9	24.0
	女性	32.0	9.0	24.3	4.6	24.0
		n	%			
性別	男性	82	37.3			
	女性	138	62.7			
年齢	前期高齢者	43	19.5			
	後期高齢者	177	80.5			
同居家族	あり	154	70.0			
	なし	66	30.0			
介護度	要介護	91	41.4			
	要支援	129	58.6			
訪問サービス	利用	52	23.6			
	利用なし	168	76.4			
住居の立地環境	斜面地	48	21.8			
	平地	172	78.2			
自宅への車横づけ	可能	173	78.6			
	不可能	47	21.4			
住居形態	戸建	208	94.5			
	集合住宅	12	5.5			
ソーシャルネットワーク	12>	103	46.8			
	12	117	53.2			
病気治療に関する情報が医療と福祉で共有されている	思う	160	72.7			
	思わない	60	27.3			
病気治療に関する情報が福祉間で共有されている	思う	166	75.5			
	思わない	54	24.5			
療養生活意向の情報が医療と福祉で共有されている	思う	140	63.6			
	思わない	80	36.4			
療養生活意向の情報が福祉間で共有されている	思う	152	69.1			
	思わない	68	30.9			
今後の生活の不安	不安	122	55.5			
	不安でない	98	44.5			
自身の健康の不安	不安	144	65.5			
	不安でない	76	34.5			
配偶者の健康	不安	63	28.6			
	不安でない	29	13.2			
	配偶者なし	128	58.2			

(2) 個人背景による CSQ-8J 得点の平均得点の差 (表 2)

t 検定の結果、要支援 ($p = 0.003$) 病気、治療に関する情報が医療と福祉で共有されていると思う ($p < 0.000$) 病気、治療に関する情報が福祉間で共有されていると思う ($p < 0.000$) 療養生活の意向の情報が共有されていると思う ($p < 0.000$) 療養生活の意向の情報が福祉間で共有されていると思う ($p = 0.014$) 今後の生活の不安である ($p < 0.000$) 自身の健康が不安である ($p = 0.021$) 配偶者の健康が不安である ($p = 0.024$) が有意に CSQ8-J の平均得点が高い結果であった。

項目		MEAN±SD	p値 ^a
性別	男性	23.6±3.9	0.267
	女性	24.3±4.6	
年齢	前期高齢者	23.3±4.5	0.260
	後期高齢者	24.2±4.3	
介護保険利用期間	43	24.1±4.3	0.675
	43 >	23.8±4.4	
同居家族	あり	23.5±4.4	0.005
	なし	25.2±4.0	
要介護度	要支援	25.0±4.1	0.003
	要介護	23.2±4.4	
訪問サービス利用	あり	24.3±4.4	0.578
	なし	23.9±4.3	
立地	斜面地	24.7±4.0	0.199
	平地	23.8±4.4	
車の横付け	可能	24.0±4.3	0.856
	不可能	23.9±4.7	
住居形態	戸建	23.9±4.4	0.132
	集合	25.8±3.9	
ソーシャルネットワーク	12 >	23.5±3.8	0.051
	12	25.8±3.9	
病気治療に関する情報が医療と福祉で共有されている	思う	24.8±3.9	<0.000
	思わない	21.8±3.9	
病気治療に関する情報が福祉間で共有されている	思う	24.7±4.0	<0.000
	思わない	22.0±4.0	
療養生活意向の情報が医療と福祉で共有されている	思う	24.9±4.0	<0.000
	思わない	22.4±4.6	
療養生活意向の情報が福祉間で共有されている	思う	24.5±4.5	0.014
	思わない	22.9±4.5	
今後の生活の不安	不安である	23.0±4.2	<0.000
	不安でない	25.2±4.2	
自身の健康の不安	不安である	23.5±4.0	0.021
	不安でない	25.0±4.7	
配偶者の健康の不安	不安である	23.1±3.8	0.024
	不安でない	23.1±4.7	

^at検定

(3) CSQ-8J の影響要因 (表 3)

ステップワイズ法による重回帰分析の結果、病気、治療に関する情報が福祉間で共有されている ($\beta = 0.342, P = 0.031$) のみに有意な関連が確認された。

表3.離島在住在宅療養高齢者の満足度の影響要因(ステップワイズ法による重回帰分析)

独立変数	標準回帰係数(β)	p値
病気、治療に関する情報が福祉間で共有されている	0.342	0.031
R^2		0.270

(4) 結論

t 検定、重回帰分析の結果、「病気、治療に関する情報が福祉職者間で共有されている」の項目が満足度の影響要因であり、「共有されている」と思う者が、有意に満足度が高かった。本研究結果から福祉職者が医学的側面からのアセスメントに基づいたサービスがさらに求められている結果かもしれない。また、福祉職者の現任教育システムの構築発展の必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計2件)

1. 横尾誠一、大町いづみ、中根秀之、離島地域における在宅療養高齢者のソーシャルネットワークに関する研究、第49回日本看護学会論文集-ヘルスプロモーション-、査読有、151-154、2019年。
2. 横尾誠一、辻麻由美、在宅で暮らす高齢者のスピリチュアリティに関する研究、ホスピスと在宅ケア、26(3)、査読有、342-350、2018。

[学会発表](計2件)

1. 横尾誠一、大町いづみ、中根秀之、離島地域における在宅療養高齢者のソーシャルネット

ワークに関する研究、第 49 回日本看護学会-ヘルスプロモーション-学術集会、2018 年 9 月 20 日、岡山コンベンションセンター（岡山県岡山市）。

2. 横尾誠一、大町いづみ、河内純子、立石美緒、中根秀之、離島在住の在宅療養高齢者による地域医療福祉サービスの満足度に関連する要因、第 24 回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 久留米、2017 年 2 月 5 日、久留米シティプラザ（福岡県久留米市）。

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：中根 秀之

ローマ字氏名：NAKANE,Hideyuki

所属研究機関名：長崎大学

部局名：医歯薬学総合研究科（保健学科）

職名：教授

研究者番号（8桁）：90274795

研究分担者氏名：大町 いづみ

ローマ字氏名：OHMACHI,Izumi

所属研究機関名：長崎大学

部局名：医歯薬学総合研究科（保健学科）

職名：准教授

研究者番号（8桁）：40342406

(2)研究協力者

なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。